

積み重ね つみ重ねても またつみかさね

令和4年2月9日 No. 48 文責：佐野紳二

冬季オリンピック開幕

2月4日（金）の夜に北京国家体育館（通称：鳥の巣）で開会式が行われ、20日までの約2週間にわたる冬季オリンピックが開幕しました。男子ジャンプ・ノーマルヒルの小林陵侑選手の金メダルをはじめ、複数の選手がメダルを獲得し、盛り上がりを見せているようです。今後も日本人選手の活躍に期待したいところですが、冬季オリンピックの歴史などがちょっと気になり、調べてみました。



始まりは1924年 フランスのシャモニー



冬季オリンピックは1924年、夏の大会から28年遅れてはじまりました。第1回大会はアルプスの最高峰モンブランのふもとにあるシャモニー（フランス）で開かれました。（実はこの大会はフランスが主催して実施された『国際冬季競技週間』で、これを翌年になって国際オリンピック委員会（IOC）が『第1回冬季オリンピック競技大会』として“追認”したそうです）この時に行われた競技は、スキュー（距離・ジャンプ・ノルディック複合）、スケート

（スピード・フィギュア）、アイスホッケー、ボブスレー（4人乗り）にデモンストレーションのカーリング、ミリタリー・パトロール（バイアスロンの前身）を合わせて6競技、16種目でした。

ちなみに、北京オリンピックでの競技数は15競技109種目で、これまでで最多なのだそうです。

冬季オリンピックが始まった頃はやはり北欧勢が圧倒的に強く、ノルウェー・スウェーデン・フィンランドの3か国が正式種目の14種目中9種目で金メダルを獲得しました。

冬季オリンピックが始まったのは1924年ですが、実は冬季オリンピック実施種目のうちフィギュアスケートは1908年の第4回ロンドン大会から、アイスホッケーが第7回アントワープ大会で、夏季オリンピックの競技のひとつとして実施されていたそうです。（当時は冬季オリンピックがなかったため、夏季オリンピックという言い方も当然ありませんでしたが…）

冬季オリンピックならではの苦労

最近では夏に行われる夏季オリンピックでの気温上昇が懸念されていますが、冬季オリンピックではそれがより深刻で、過去には暖冬の影響でスケートリンクの氷が解けてしまったり、ボブスレーやリュージュのようなソリ競技でコースが解けてしまったりするなど、競技が予定通りにできなかったこともあったそうです。それ以外にも、風や吹雪の影響で競技日程が変更になることはよくあります。（北京大会でもすでに一部の競技で日程の変更がありました）。

日本とオリンピック

日本で冬季オリンピックが開催されたのは、1972年の札幌大会と1998年の長野大会の2回。札幌大会ではスキージャンプでメダルを独占したこと、長野大会ではスピードスケートの清水選手やジャンプ団体などで5つの金メダルを獲得したことが記憶に残っているところです。

札幌大会も長野大会も、私にとっては「記憶の一部」なのですが、今の子どもたちにとっては

（お父さんやお母さんにとっても？）これらのオリンピックは「教科書に出てくる歴史」のようですね。



日本人で最初にメダルを獲得したのは猪谷千春選手で、アルペン・スキーの回転競技で銀メダルを獲得しました。日本人最初の金メダルは札幌大会の笠谷選手で、ジャンプ・ノーマルヒルでの獲得でした。また、日本人がこれまでに獲得した金メダルは15個で、最も多いのがスキージャンプ、1人での最多獲得数は2個で、フィギュアスケートの羽生選手の他、5人がいます。

といった具合で、まだまだ探せばたくさん出てきそうな「オリンピックネタ」ですが、今日はこれくらいにしておきます。オリンピックを見る・見ない、あるいはどんな場面に感動したり心を動かされたりするかは人によって様々です。私はスポーツ観戦が好きなので、興味のある競技を見て、頑張っているアスリートのみなさんにたくさんの拍手を送ろうと思っています。

橿形北小学校のいいところは 3年生の国語の学習より

3年生が今、国語で学習しているのが「私たちの学校じまん」という単元です。自分たちの学校の自慢できるところを、「理由や事例を挙げながら話の構成を考え、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに気をつけて話すこと」がこの単元で学ぶことです。

この日、3年教室ではスピーチの原稿づくりを行っていました。「学校の自慢できるところって、どんなところなのかなあ…」と思いながらワークシートを覗いてみると、実に多様な意見が人それぞれに書かれていて、「やるなあ、3年生」と感心してしまいました。子どもたちが挙げてくれた橿形北小学校の自慢は、次のようなことでした。

- ・豊かな自然に囲まれている（大和川が近くを流れている、桐林、富士山がよく見える 等）
- ・学校の施設が恵まれている（体育館が広い、パソコンが一人一台ある、教室が広い 等）
- ・児童会活動が活発（北小オリンピック、たてわり班活動、お誕生日シール・放送 等）
- ・楽しい行事がある（運動会、ドレミファ発表会、社会科見学 等）
- ・給食がおいしい
- ・長い歴史がある
- ・内藤多仲博士の母校



施設や歴史、郷土の偉人だけでなく、児童会での取組を「橿形北小のいいところ」として挙げている子がとても多く、何だかとても嬉しくなっていました。

私はどうか…といえば、やっぱりこうした「いいところ」に気がつき、それを発信できる素敵な子どもたちがたくさんいることが一番の「橿形北小のいいところ」だと思っています。ぜひ今週末の3連休、子どもたちと一緒にご家族のみなさんで「橿形北小・北小学区のいいところ探し」をしてみてください。



雪に注意！ 子どもたちの登下校指導・通学路の除雪にご協力をお願いします

天気予報を見ると、明日は南岸低気圧の影響で山梨県内にも20~40cmの積雪が予想されるそうです。明日の朝から降り始めるということなので、登校時にはあまり心配はないのかも知れませんが、降り方によっては子どもたちが下校する頃にはある程度の積雪があることも予想されます。

県内の大雪というと、今から8年前の2014年2月の大雪を思い出します。今回の雪がどのくらい降るかははっきりとは分かりませんが、降雪の具合によっては子どもたちの下校時の見守りや各家庭の近くを中心とした通学路の除雪をお願いすることがあるかも知れません。その際にはご協力をお願いします。

明日の下校時刻等が変更になる場合には、学校連絡メールを使ってお知らせします。

